資料3

常盤平団地のスターハウス

21世紀の森と広場

R7.10.29　第17回松戸市まち･ひと･しごと創生懇談会

地方創生SDGs産学官民連携推進事業について
（デジタル田園都市国家構想交付金：地方創生推進タイプ）

令和6年度事業実績

松戸市総合政策部政策推進課SDGs推進担当室

本事業に係る国の交付金について

デジタル田園都市国家構想交付金の概要

デジタル田園都市国家構想
DIGIDEN

➢ デジタル田園都市国家構想の実現による地方の社会課題解決・魅力向上の取組を加速化・深化する観点から、「デジタル田園都市国家構想交付金」により、各地方公共団体の意欲的な取組を支援。

デジタル田園都市国家構想交付金

デジタル実装タイプ

➢ デジタル技術を活用し、地方の活性化や行政・公的サービスの高度化・効率化を推進するため、デジタル実装に必要な経費などを支援。

書かない窓口

地域アプリ

遠隔医療

地方創生拠点整備タイプ

➢ 観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する拠点施設の整備などを支援。

道の駅に隣接した観光拠点

子育て支援施設

スタートアップ支援拠点

地方創生推進タイプ

➢ 観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組などを支援。

- 地方版総合戦略に位置付けられた地方公共団体の自主的・主体的な取組を支援（最長５年間）
- 東京圏からのUIJターンの促進及び地方の担い手不足対策
- 省庁の所管を超える２種類以上の施設（道・汚水処理施設・港）の一体的な整備

外部有識者の意見聴取

地域産業構造転換インフラ整備推進タイプ

➢ 産業構造転換の加速化に資する半導体等の大規模な生産拠点整備について、関連インフラの整備への機動的かつ追加的な支援を創設。

大規模生産拠点整備プロジェクト ← 選定 ← プロジェクト選定会議

3

内閣官房作成「デジタル田園都市国家構想交付金について」（令和6年4月）資料抜粋

地方創生SDGs産学官民連携推進事業の概要について

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）

申請者	千葉県松戸市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5～R9年度（5年間）	令和6年度事業費（補助率1/2）	11,161千円（5,531千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ（横展開型）	事業分野（詳細）	生涯活躍のまち分野
目的（効果）	1 多様な主体のアイディアやノウハウを活かし地域課題の解決を図るため、SDGsに取り組む企業・団体等と連携し、SDGsをきっかけとした産学官民の連携を促進する。 2 SDGsネイティブとも言われるZ世代を主体にSDGsの観点を軸に地域との関わりを深め、本市での就職率・愛着率を高める。 3 大学等との共同研究及びその成果を活用し、産学官民連携を軸とした多世代交流を推進する。		
令和6年度事業概要・主な経費	**1 SDGsを原動力にした産官学連携促進** ①まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度/セミナー実施（委託料） ②まつどSDGs×産学官民連携事業提案窓口 ③常盤平地域を中心としたSDGsの推進に係る会議（報償費等） **2 Z世代による事業推進** Z世代による活動に係る推進事業（委託料） まつどSDGsキャラバン推進事業（（株）ミライノラボ） **3 産学官民連携による多世代交流の推進** ①住民の健康増進に向けた共同研究（委託料） 健康プログラムTOKIWALK（トキウォーク）設置・活用（千葉大） ②大学等による住民参加型イベント補助（補助金）		

令和6年度に実施した事業の実績（2年目/5年計画）

1　SDGsを原動力にした産官学連携促進

①　まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度

・本市におけるSDGs達成に向けた機運を醸成することを目的に、本市に関わりのある企業・団体が、SDGs達成に向けた取り組み宣言書を作成し、市に登録する制度。
・令和5年8月に開始し、令和6年度末で196者が登録。

②　まつどSDGs×産学官民連携　事業提案窓口

民間企業等の提案・アイデアを活かして行政課題の解決につなげるため、SDGs未来都市計画に基づき令和5年1月に設置。
　市の「オンライン申請システム」から、常時提案を受け付け、庁内関係課と内容について検討。

まつどSDGsセミナーの開催

■　登録メンバーの募集・メリットPR

制度を知っていただくためにHPや広報媒体でのPRに加え、市内事業者を訪問し説明を実施

■　まつどSDGsセミナーの開催

日　時:令和7年2月19日(水)
場　所:聖徳大学生涯学習社会貢献センター
表　題:選ばれるためのSDGs
概　要:前年度要望の多かったSDGs推進に取組む事業者の事例紹介や参加者同士の交流会を開催
参加者:21の企業・団体から、総勢32名が参加
成　果：
・「今後何かに取り組むきっかけとなりそう」と93%の方が回答
・1者あたり10.5枚の名刺交換

③　常盤平地域を中心としたSDGsの推進に係る会議

SDGsの達成に向け、市民、企業、各種団体等のステークホルダー及びZ世代と連携し、常盤平団地エリアのSDGsの取組みを総合的かつ効果的に推進するため、「まつどSDGsキャラバン推進会議」を開催。（令和6年度：3回開催）

連携事例:オリジナル横断幕づくりワークショップ

連携事業者…（一社）サステナブルコミュニティ共創機構

・本市において、使わなくなった横断幕・懸垂幕の再利用の道を模索していたことを背景に、「横断幕・懸垂幕の再利用」という課題に関する解決策を本市HPや内閣府プラットフォームで募集
・横断幕の裏面を活用した「コミュニケーショングラフィック」の提案があり、常盤平団地エリアにおける学生たちのアクションプラン「多文化共生×アート」との親和性をもとに、オリジナル横断幕づくりのワークショップを開催

本窓口での提案が、当室の別事業に生かされ、事業間連携という点でも好事例となった。

令和6年度に実施した事業の実績

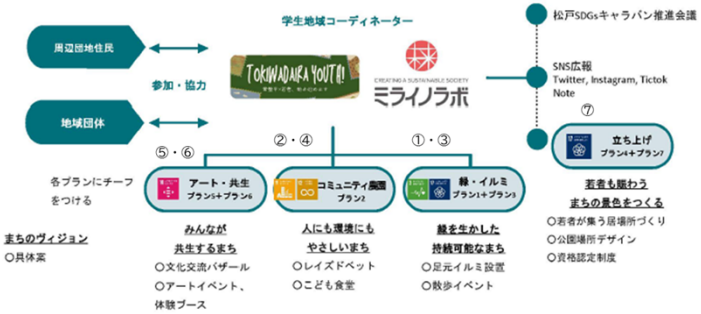
2　Z世代による事業推進

Z世代による事業推進

Z世代のアイディアや視点を取り入れ、地域課題の解決や多世代交流の推進を図ることを目指し、Z世代が策定したアクションプラン（令和6年度まで）に基づく、常盤平団地エリアにおける取り組みを実施。

Z世代が作成したアクションプラン

常盤平団地エリアにおける持続可能なまちづくりについての
アクション・プラン（令和4年度策定）



⑤⑥多文化共生×アートワークショップ　アクションプラン

令和5年度の活動

アートを通じて、日本人と外国人が交流できるまちをつくりたいという提案について、令和5年度はオリジナルフラッグを作るアートワークショップを開催。

令和6年度の活動

多文化共生をテーマにした、オリジナルタペストリーづくり（２回）や、オリジナル横断幕を作成するアートワークショップを開催。

タペストリーづくりでは昨年度以上の参加があり、横断幕づくりでは大人の外国人にも参加いただき、アクションプランの趣旨に沿ったイベントとなった

①　足元イルミ　アクションプラン

令和5年度の活動

夕方から夜間にかけての団地内の暗さが課題とされる中、令和５年度は、足元を照らす電飾を設置する実証実験を実施

・SDGsミニ・イルミネーションイベント

令和6年度の活動

足元の暗さをより広範囲で対応するための実証として、電飾範囲を広げるとともに、クリスマスの時期に実施することで学生がサンタに扮するなど、イベント性を高めつつ実施

・令和6年12月21日(土)
・SDGsクリスマスイルミネーションイベント

④⑦常盤平×若者　アクションプラン

令和5年度の活動

常盤平団地の自然の中で若者も集まるまちをつくりたいという提案について、令和5年度は学生団体「TOKIWADAIRA　YOUTH」を立ち上げ。ディスカッションの場Meetupを開催。

TOKIWADAIRA YOUTH!!

令和6年度の活動

6月以降、毎月1回程度のペースでMeetupを開催し、活動や企画等について意見交換。千葉商科大学、淑徳大学、津田塾大学、明治大学等市外の大学の参加者も増加。

・参加メンバー 約21人
・Meetupを8回開催(常盤平エリアでのディスカッション)

③　ウェルネス　アクションプラン

令和5年度の活動

常盤平の緑を活かし住む人が健康になるまちづくりの提案について、令和5年度は千葉大学予防医学センターの実施する常盤平での健康ウォーキングイベントを支援。

令和6年度の活動

常盤平での健康ウォーキングイベント（TOKIWALKサポーター講座、TOKIWALK体験イベント）について、企画段階から積極的に参加。スマホを使い慣れない高齢者への説明や支援等を実施。

・TOKIWALKサポーター講座等イベントに、サポーターとして参加

■【総括】まつどSDGsフォーラム

・令和6年度はアクションプランの実証結果を総括報告
・さらに、学生企画「多世代×SDGs」をテーマとし、若年層で活躍されている方のゲスト講演やパネルディスカッション等を実施

令和6年度に実施した事業の実績

３ 産学官民連携による多世代交流の推進

① 住民の健康増進に向けた共同研究（TOKIWALK）

・常盤平団地エリアに設置された22か所のチェックポイントを巡り、ウォーキングを促す健康プログラム。UR都市機構、千葉大学予防医学センターと3者連携で実施。
・令和６年度は「TOKIWALKサポーター」と称するTOKIWALKの活動の輪を広げる役割を持つ方の育成に取り組み

■令和6年度TOKIWALKイベント開催実績

10月12日　TOKIWALKサポーター講座
　　試行版座談会
12月　7日　TOKIWALKサポーター講座
3月　8日　TOKIWALKウォーキングイベント

■TOKIWALK ガイドブックの作成
常盤平の見どころや豆知識など掲載

■登録者数の推移（カッコ内は前年度比）

令和４年度（初年度）	令和５年度	令和６年度
86人	196人（＋110人）	395人（＋199人）

② 大学等による住民参加型イベント補助

・市内4大学に対し、常盤平団地エリアにおいて地域課題の解決につながり、住民も一緒に参加できるイベントを実施した際に補助を実施（1回最大200,000円）

■ 千葉大学園芸学部柳井研究室「暮らしの庭」
常盤平団地「望のひろば」における地域住民に開かれたコミュニティガーデンの設置や、花・ハーブを活用するイベントを支援

■ TOKIWADAIRA YOUTH！
「SDGsクリスマス
イルミネーションイベント」

Z世代の学生達によるイベント
実施を支援

本事業のKPIの設定について

本事業は、SDGsの達成を原動力とした産学官民の連携強化とそれに伴う地域課題解決推進を目的とするとともに、Z世代の学生が主体的に関わり、Z世代の視点で地域課題の解決や多世代交流を促進する事業を実施することで、Z世代の本市への愛着を高めることにもつながるという考え方から、以下のKPIを設定。

KPI①	SDGs産学官民連携に係る提案マッチング数（回）	令和9年度まで継続	最終目標値 140回
KPI②	「まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度に登録した事業者数（者）		最終目標値 520者
KPI③	「まつどSDGsキャラバン」に参加するZ世代数（人）		最終目標値 90人
KPI④	市内4大学の在学生における市内就職率（%）		最終目標値 6.7%

KPI① SDGs産学官民連携に係る提案マッチング数（回）

	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	期間累計
KPI目標	―	20回	30回	30回	30回	30回	140回
実績	0回	5回	10回	―	―	―	15回
差分	―	▲15回	▲20回	―	―	―	▲125回

令和６年度KPIは「未達」。（▲20回）
理由：内閣府のプラットフォームを活用することや積極的なPRを行い、昨年度の２倍まで提案者は増加したものの、単年度及び累計目標には届かなかった。

令和７年度以降の取り組み方針
- まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度登録者をはじめ様々な機会・媒体により幅広なＰＲを実施
- 成功事例を産学官民連携の優良事例として示すとともに、無償実証等、採用に至りやすい条件を示し提案を募集

本事業のKPIの推移及び今後について

KPI② 「まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度」に登録した事業者数（者）

	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	期間累計
KPI目標	―	400者	30者	30者	30者	30者	520者
実績	0者	60者	136者	―	―	―	196者
差分	―	▲340者	＋106者	―	―	―	▲324者

令和6年度KPIは「達成」。（＋106者）
理由：様々な企業や団体への直接の働きかけを積極的に行ったため単年度目標の4倍を達成したが、累計目標には届かなかった。

令和7年度以降の取組み方針
・アンケート等を実施し制度登録者のニーズを把握し対応を図る。
・登録者同士の交流・連携の拡大、優良事例の共有等、登録によるインセンティブの拡大・PRを図る。

KPI③ 「まつどSDGsキャラバン」に参加するZ世代数（人）

	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	期間累計
KPI目標	10人	40人	20人	10人	10人	10人	90人
実績	32人	84人	17人	―	―	―	101人
差分	＋22人	＋44人	▲3人	―	―	―	＋5人

令和6年度KPIは「未達」。（ ▲３人）
理由：市のキャラバン事業に学生の積極的な参加を促すことが出来たため、令和6年度の達成率は85%と高く、累計目標も達成できた。

令和7年度以降の取組み方針
・Z世代の方々が参加できるような取り組みを実施
・事業費減少にともなうイベント数減少が避けられない中、SNS 等を通じ同世代への活動の周知・啓発を図る。

KPI④ 市内4大学の在学生における市内就職率（%）

	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
KPI目標	―	5.5%	6.0%	6.5%	6.6%	6.7%
実績	5.0%	4.8%	4.3%	―	―	―
差分	―	▲0.7%	▲1.7%	―	―	―

令和6年度KPIは「未達」。（▲0.7%）
理由：就職先決定には条件等多様な要素があり、本事業の影響度は不明だが、市内就職希望が少なかったため。

令和7年度以降の取組み方針
・市への愛着を高め、SDGsに取り組む市の企業の魅力紹介の一助となるイベント等の開催